令和7年度

政策1　災害レジリエンスNo.1の実現

渡良瀬幹線道路（新里笠懸工区）バイパス整備事業

よくわかる公共事業

事業継続中

どのような未来を目指すための事業か

災害時にも機能する強靭な道路ネットワークを構築するため

バイパス道路をつくります

事業位置
桐生市～みどり市

地元の声

・自然災害による道路の寸断などがおきないようにしてほしい。(地元住民)
・桐生・みどり地域は南北移動に時間がかかるため、スムーズに移動できるようにしてほしい。(地元住民)

事業の概要

■ 事業箇所：みどり市大間々町桐原～笠懸町鹿
■ 事業内容：バイパス整備 延長 4.1km 道路幅 14.5m
■ 事業期間：令和4年度～
■ 重要物流道路：該当(代替・補完路)

■ 現在の交通量：8,866台/日(現道 自動車)
(R3年度)　15人/12時間(現道 歩行者)
64台/12時間(現道 自転車)
■ 計画交通量　：4,400台/日(現道 自動車)
(R22年度)　7,300～11,700台/日(バイパス 自動車)

事業前

◆ 現道の県道大間々世良田線は、赤城駅の踏切前後等を中心に渋滞が発生しており、緊急輸送道路でありながら、円滑な通行に支障をきたしています。

事業前の状況

事業後

◆ バイパス整備により、現道の交通をバイパスに転換することで渋滞が解消され、災害時にも機能する強靭な道路ネットワークが確保されます。

事業後のイメージ

成果を示す項目	実施前
移動時間(国道353号～国道50号)	約13分
主要渋滞箇所	5箇所

実施後(目標)
約9分(4分短縮)
1箇所(4箇所減少)

事業の進捗状況(令和7年3月末現在)

今、何をしているか

令和7年度は、用地測量及び建物調査を行います。

事業のすすみ具合

事業開始 ●――● 事業完了